

「仕事を見つめる物語」

参考著書「人生の目的に気づく24の物語」中山和義著より

専門学校を卒業して、美容院で働き始めた女性がました。
彼女が働いている美容院ではスタッフが休日にボランティアとして病院を訪問し、入院している患者さんにカットのサービスをしてあげていました。
彼女はせっかくの休みに病院に行かなければいけないボランティア活動が嫌いです。
しかし、お店の方針だったので仕方なく、嫌々従っていました。

ある日。
友人に遊びに誘われたのを断って病院のボランティアに参加していた彼女は、イライラしながら、30歳ぐらいの女性の患者さんをカットしてあげていました。

すると突然、

「美容院の仕事は楽しい？」

と患者さんがたずねてきました。

「何で急にそんなこと聞くのだろう？ イライラしているのが伝わったかな？」

と思いながら、

「楽しいですよ」

と、彼女は適当に髪をとかしながら答えました。

すると、

**「羨ましいな…。私は小さい頃から美容師になるのが夢だったの。
病気で体が弱かったから無理だと親に止められて、あきらめたんだ」**
と寂しげに話しました。

申し訳なさそうに、

「そうだったんですか…」

と頷くと、

**「でも、休みの日にボランティアまでして、頑張っているあなたに髪を切ってもらえて良かった。
ありがとう」**

と言いました。

病院からの帰り道、車の中で彼女と一緒にいったスタッフから、

「今日あなたがカットをしてあげた患者さん、週末に生死をかけた大きな手術をするんだって」
という話を聞きました。

その時、彼女は患者さんが「美容院の仕事は楽しい？」と尋ねた理由が、はじめて分かりました。
そしてスタッフに、

「手術が成功したら、もう一度、今日の患者さんの髪をカットさせてください。お願いします」
と目に涙を浮かべながら訴えました。

コメント

自分にとって当たり前のことでも、他人にとって当たり前でないことが、人生には数多くあります。
仕事も同じこと。

自分にとって当たり前の仕事でも、それが他人にとっては夢のような仕事ということがあるので
す。

今の仕事ができるのは、当たり前ではありません。

願いながらも叶わなかった、誰かの夢の世界を生きていることを忘れてはいけません。